

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

由布市長 相馬 尊重

市町村名 (市町村コード)	大分県由布市 (442135)	
地域名 (地域内農業集落名)	瀬口 (瀬口)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年2月20日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

中山間組織の役員が中心となり経営している。その他の農業者は水稻を中心に栽培しているが、高齢化しており後継者がいない。地域内でも主に栽培している作物は水稻である。現在取組を行っているものは鳥獣被害防止対策、農地の保全・管理である。地域が抱える課題として農業者の高齢化、農業者の減少、農業にかかる経費の増加、農家収入の低下、新規の担い手不足、遊休農地の増加、鳥獣被害の増加、有害鳥獣の駆除人材の不足、機械等の共同利用が進まないこと、農業用機械の購入ができないこと、新技術導入のための知識不足が挙げられる。

主な作物:水稻

(2) 地域における農業の将来の在り方

担い手確保のため、地域で新規就農希望者との交流を図ることを目指す。また地域の所得向上に向け、売れる作物への転換を考えている。理想は米の買い取り価格が上がり、利益が出ることである。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	24.5 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	24.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
・中山間組織の役員を中心となる経営体として位置づける。当面は現状維持をしていくが、今後、離農者が出た場合は機械利用組合が受託し、農地の有効利用を考え、耕作放棄地にならないよう農地保全に努める。 ・自己所有農用地の維持管理が精一杯で、農用地の集積、集団化の取組について考える余地がない。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構の情報収集を積極的に行い、将来活用できるか検討を行いたい。
(3) 基盤整備事業への取組方針
基盤整備に取り組む予定なし。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
・新規農業者や地域出身者のUターン就農者等、次世代へのバトンタッチが急務だと思われるが、具体的な取組はこれから検討していく。 ・ゆふ農林業サポート人材バンクとも連携して確保・育成を進める。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
なし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	
【選択した上記の取組方針】				
①防護柵の点検と補修。 ⑦中山間事業を活用し、引き続き管理を行っていく。				